

2025

北鹿の学び舎から⑨

— 学校紹介・活躍する修了生 —

今回は、令和3年度に秋田職業能力開発短期大学校を修了し、現役のエンジニアとして活躍されている佐藤亜星さんを紹介します。

佐藤さんが所属する株式会社
社小滝電機製作所は、大館市
釈迦内に本社を構え、主に車

学び直しで技術者の道へ

のランプを光らせる電子基板の製造を行っています。製造したLED基板は国内外の様々な車に使用され、大館から世界に向けて高品質な製品を送り出しています。製造過程では様々な課題もあります。同社は自社開発の製造装置によって課題を解決してきました。これらの製造装置群は同社の高品質なもののづくりを支えており、「クイック光質センサ」や「クイック色質センサ」などの装置は実用新案や特許を取得しています。

佐藤さんは、高校卒業後に就職していましたが退職し、1年間はアルバイト生活をし

ながら将来について色々考えていました。最初は再就職先を探しましたが、現状のままではよい条件の求人に出会えないと考え、学び直す必要性を感じたそうです。そこで高校時代に興味があつたプログラミング技術を習得するため、令和2年に当校へ社会人入校を果たし、エンジニアの道を歩み始めました。

入校当初を振り返ると、佐藤さんは「授業の中で初めてはんだ付けをやった時、未経験だったのでとても苦戦しました」と話します。しかし、学生達は失敗しても原因を理論的に考え、再挑戦を繰り返し



ながら成長していくものです。佐藤さんも「最初はハードウェア（電子回路の製作に関する技術）の授業がきついと思っていました。が、繰り返すことにはなだ付けにも慣れて、これも楽しいと感じるようになりました」と話してくれました。

次に学生生活で印象に残っていることをたずねると、佐藤さんは「アルバイトをしながらレポート課題をこなすのが大変でした。ただ、アルバ

イトだけの時期には戻りたくないと思ひ、2年間学業と両立させることができました」また、「人見知りでも友人ができ、一緒に遊んだりレポト作成で協力できたことが良い思い出です」とも話してくれました。

現在、佐藤さんは同社の核をなす製造装置の開発、メンテナンスを行う技術部に所属し、産業用ロボットを活用した自動はん付け装置等の開発・トラブル対応を行っている。仕事について伺うと「4年目になり、色々な仕事を任せてもらえるようになりました。自分一人でトラブルを解決できると成長を感じられ、

製造の大事な部分なのでやりがいを感じます」と話してくれました。今後の目標についても伺うと、「プログラミングは4年経験したので、今後はハードウェアの知識を深め、トラブル対応や、開発に活かしたい」と語ってくれました。

を進められます。また、高校卒業後に就職と進学を経験した身として、どちらも一長一短ですが、進学して学んだからこそ挑戦できることもあると思います。仕事に面白さを求めるなら進学も良い選択肢だと思えます」こうしたメツ

今回、佐藤さんは当校の社会人向け研修でIoT技術のセミナーを先輩たちに送ってく

コースを2日間受講しました。今回、インタビューを通じて、これも社内です。受講を希望し、会社がサポートしてくれました。今後ますます成長し、大館たこのことです。

最後に後輩へのアドバイス　もののづくりを更に発展させを伺いました。「どんな仕事　てくれることを期待しています。も人と関わるので、コミュニケーション。」

ケーション能力は絶対身につけた方が良いでしょう。お互いに助け合って円滑に仕事

秋田職業能力開発短期大学校
電子情報技術科
能開准教授
細井遼太郎

秋田職能短大 電子情報技術科

(令和3年度卒)

佐藤 亜星さん

株式会社小滝電機製作所



トラブル対応中の佐藤さん



佐藤さんが設計に携わった 自動はんだ付け装置

秋田職業能力開発短期大学校
電子情報技術科 能開准教授
細井遼太郎